

西川春洞 （以心録） 書家。弘化四年五月、千五百江戸生れ、大正四年八月十日没（一八四七一―一九二五）。諱元讓、字惟徳・子謙。別號生員齋、大夢道人、如瓶人、春洞居士、石屏道人、石巷子、稚學園、翠竹居、芳蘭拈古山民、謙慎書堂主人等。幕末國事に奔走、維新後大藏省出仕。のち漢魏六朝の書法に達し一家を成す。春洞流と曰はれ、一時は不世傳鶴と並稱せられた。門下に諸井春畦、諸井華畦、武田環洞、豊後春海等。書家西川寧の父。

『草書』、『草書前未澄賦』（明治二十八年五月、二十八年日田活書店）、『行書千字文』（明治二十八年五月、二十一年日中村喜三郎刊、日活大右衛門發兌）等。



行書千字文

諸井時理著